

**■ テーマ名****神戸市における認知症診断助成制度「認知症神戸モデル」を利用した認知症早期対応システムの開発****■ キーワード**

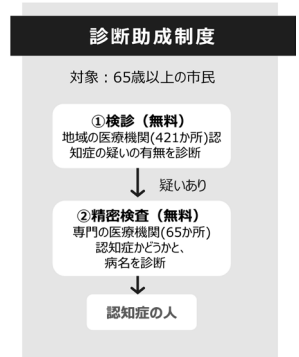
認知症の診断、認知症の早期対応、診断助成、診断後支援

**■ 研究の概要**

認知症高齢者が爆発的に増加しているが、認知症施策で重要なことは、認知症高齢者当事者の生活を第一に尊重することである。認知症早期診断の奨励には、診断後の当事者の支援が充実していなければならない。それを踏まえて、認知症の早期診断、早期対応においては、どのような時期にどのような方法で認知症を早期発見することが適切であるかを考える必要がある。

本プロジェクトでは認知症のスクリーニング検査について研究を行う予定である。アルツハイマー病をはじめとする認知症は、自分が病気であるという自覚（病識）がなく、医療機関の受診を勧めても激しく拒否することが多い。しかしながら、多くの高齢者が、本制度を利用して受診してきている。受診者について様々な検討を加えることによって、本制度をさらに改善することが可能となる。本制度に関心のある研究者とともに、これらの点を共同研究したいと考えている。

認知症の最初期には主観的認知機能障害（SCI）という状態があるとされており、この時期には、認知機能の低下（もの忘れがある、理解力が落ちた）を自覚的に行っているとされている。このような状態のときには医療機関の受診に対し、反発することは少ない。われわれはこのような時期を早期に発見することが重要であると考えている。そのためスクリーニング検査の開発をも行う予定である。

**神戸市の認知症支援の仕組み****■ 他の研究／技術との相違点**

本制度と同様な診断助成制度はこれまでに、いくつかの自治体でも実施されてきた。しかしながら市民の利用はごく限られたものでしかなかった。なぜこの神戸市の認知症診断助成制度が市民に受け入れられ利用されているのかを分析することが重要である。

**■ 今後の展開、実用化へのイメージ**

今後は、本制度を利用して受診してきた市民の特徴を分析する必要がある。そしてこのような制度が広く全国で採用されるために、制度のrefineを行う必要がある。

**■ 関連業績（特許・文献）**

- 1) Kiyoshi Maeda, Noriko Hasegawa: The Dementia Kobe Model: initiatives to promote a Dementia Friendly Community in Kobe City, Japan. *Psychogeriatrics* 20 (3): 353-354, 2020
- 2) Yoko Aihara, Kiyoshi Maeda: Intention to use a subsidized system for dementia screening in primary care settings among community-dwelling older people. *International J Geriatric Psychiatry*, 35(9): 1036-1042, 2020.
- 3) Hiroshi Yoshino, Hisatomo Kowa, Kiyoshi Maeda, Hajime Takechi: Eight months observation of check-up system "Kobe dementia model" of dementia in Kobe City", *Psychogeriatrics* 21(2):246-248, 2021.

**■ 研究者から一言**

認知症「神戸モデル」はいま、政府、自治体から関心を集めている。というのは、神戸市では認知症を早期診断するために、診断助成制度を開始し、多くの市民がその制度を利用しているからである。多くの市民がなぜ、この制度を利用する結果となっているのか、関心もたれている。